

オピニオン

市民がともに奏でたい

「ヒロシマと音楽」委員会メンバー 能登原由美さん

「あの日」伝える楽曲

原爆投下から69年。あの日を知る被爆者が減ってきた。惨状を直接聞くことは難しくなりつつあるが、平和の願いを込めた芸術作品は継承や発信を担い続けるに違いない。そう信じて楽曲をテーマにした交響曲や合唱曲、ジャズ、歌謡曲など多岐にわたる。ヒロシマと音楽」委員会の能登原由美さん(43)に課題や取り組みの展望を聞いた。

「ヒロシマに関する音楽は一体、どれくらいあるんですか。これまで1900曲以上について題名や製作年、作曲者、歌詞などをDB化した。あの日の惨状や反核をテーマにした交響曲や合唱曲、ジャズ、歌謡曲など多岐にわたる。ヒロシマと音楽」委員会の能登原由美さんが着手し、10年前に完成しましたが、今も新たに作られる音楽や発掘される曲が



あれば情報を更新し、楽譜や資料も収集しています。文学に比べると、音楽には優れた作品でありながら知られていない曲が多そうです。例えばフィンランドのエルツキ・アールトネン(1910〜90年)の「交響曲第2番ヒロシマ」もそうです。被爆から4年後、器楽曲ではいち早く作られました。55年には広島でも演奏されたことが中国新聞にも載りました。でもこの曲もそうですが、音源がなく、今では聴けない音楽が多いのです。

音楽には人に訴え掛け、動かす力があるんですね。例えば、反戦ソングは人々を平和運動へと団結させた時代がありました。一方で多くの軍歌のように、戦意を高揚し、戦争へ向かわせる楽曲もありました。音楽は魔術的で多くの人を巻き込みやすい特徴を持つ、と言えるかもしれません。ヒロシマの音楽にはメッセージ性が強いものもあり、残念ながら中には敬遠する人もあるようです。曲に込められた純粋な祈りを伝えることが大切です。

「ヒロシマを表現した音楽に特徴がありますか。作品が生み出され、演奏される過程や、作品が人々に受けとめられる経緯に特徴があり、考えさせられます。例えば、アールトネンの交響曲は、東欧諸国で絶賛されました。いい作品なのに西側では演奏されませんでした。米ソ冷戦が背景にあり、イデオロギーが作品の評価に影響を与えたわけです。でも日本での演奏は政治的、イデオロギ的な背景はなかったようです。被爆者を慰めるという、作曲者の純粋な意図の通りに奏でられて実際、深い感動を呼びます。ヒロシマの表現と音楽的、芸術的な価値がはがめられず、伝わったのです。さまざまな歩みの作品があるのですね。

「ヒロシマの音楽を今後どのように活用すべきでしょうか。『世界への発信』をうたい文句に、これまで多額のお金を費やして有名な歌手を呼んだ大規模イベントがありました。でも大抵、市民は聴く側にとどまり、参加型でも一部の人のみ。70年近くたつて時代や環境も大きく変わったのに、相変わらず、『平和』を掲げた曲を歌うだけの内容が多い。継承を考えるなら、頭をひねり、知恵を絞らないといけません。どんな取り組みですか。

のとら・ゆみ 広島市西区生まれ。広島大学大学院教育学研究科博士課程修了。専門は西洋音楽史。広島市内で小学校教員、広島大学大学院特任助教などを務めた。95年、「ヒロシマと音楽」実行委員会に加わり、03年からは「ヒロシマと音楽」委員会の委員に。07年から昨年まで委員長を務めた。京都市上京区在住。

DBには、作曲家偽装で騒動を起した佐村河内守氏の「H I R O S H I M A」とタイトルした交響曲もいったんは入れました。CDが売れたのは、「現代のベートーベン」などと取り上げたメディアの影響も大きかったはず。その後、創作の背景に疑惑が発覚したのは、ご存じの通りです。原爆や反核をテーマにした他の音楽に、売名目的の創作があったかもしれないが、DBに入れていきます。それも被爆地広島歴史だと思っています。

「ヒロシマの音楽を今後どのように活用すべきでしょうか。『世界への発信』をうたい文句に、これまで多額のお金を費やして有名な歌手を呼んだ大規模イベントがありました。でも大抵、市民は聴く側にとどまり、参加型でも一部の人のみ。70年近くたつて時代や環境も大きく変わったのに、相変わらず、『平和』を掲げた曲を歌うだけの内容が多い。継承を考えるなら、頭をひねり、知恵を絞らないといけません。どんな取り組みですか。

私たちの価値観で「平和の願い」がこもったこの曲、すごいでしょう」といって、若い世代に押しつけるのでは、継承できず、風化する一方でしょう。聴衆が受け身ではなく、主体的に音楽に関われるような形態の催しを探りたい。子どもたちとともに、この歌を今なぜ歌うのか、集まった市民が問題意識を共有して声を合わせることが大事なのではないでしょうか。